

講義日：2018年12月19日（水）

講師：岡田浩樹（神戸大学）

講義タイトル：宇宙人類学

講義概要

本講義では、文化人類学の観点から宇宙へのアプローチを行う宇宙人類学について解説し、宇宙開発（特に有人宇宙開発）を進める上で考える必要のある社会的・文化的要因について、新たに見つめ直す視点を与える。

まず、人文諸科学が持つ課題、21世紀にいたる現代までの社会学・人類学・心理学の成立などの歴史的背景、文化とは変容し続けるものであることを紹介し、文化人類学とは人間について考える学問であり、地球上の様々な人々と生活を共にするなどして、現地の人々の暮らし（社会・文化）を理解する異文化理解の学問であることを解説した。ここで、我々が持つ想像力は文化的背景に束縛・規定されており、実は自由な想像力とは言い難い事を指摘し、自己の想像し得る範囲とは非常に限定された考えであることを理解する重要性を説いた。

次に文化人類学と宇宙の接点について、現実的課題としての宇宙、人類学的思考実験としての宇宙、文化人類学の知見・思考・方法が有効な問題領域であることなどを説明した。また、人類の宇宙進出が進んでいくと、環境適応のための文化的変化・身体的変化の双方が一気に起こる可能性があり、「人間とは何か」をもう一度大きく問い直す現実がやってくる可能性を指摘した。文化が異なる人間を如何に理解するか、我々が属する社会・文化とは如何なるものか、人類社会の多様性と共通性とは何かなど、現在の文化研究における課題を紹介し、これらが国際宇宙ステーションの宇宙空間における多文化状況の問題としてすでに生じていることを紹介した。

宇宙人類学が扱う問題系として、(1)過去の人類文化の応用・民族誌的資料等から探る人類文化の可能性、(2)現在の社会的・文化的基盤、(3)近い将来に科学技術が生み出すリアリティの拡張などを含めた社会や文化の設計・未来における人類学的想像力に基づく人類の可能性、を挙げてそれぞれ具体例を挙げて解説した。また、宇宙生活世界を想像・創造する時に、現在の近代都市・地球の生活世界のリアリティがその基盤となっていることを指摘し、現代の我々の社会をどう捉えるか見つめ直すことが宇宙社会を考える時に必要であることを述べた。また、直近の現実を基盤とする想像力を超えた状況を設計できない状態は、本当に自由な想像・宇宙社会の設計と言えるのかを問い直した。

宇宙人類学は我々が生きる近代社会・文化を対象として再検討を行うことに挑戦し、人類の宇宙進出による環境適応では生物学的・文化的変容の双方が起こり得ること、宇宙は既存の価値観・意味の体系を根底から変える「新たなフロンティア」になり得ることの紹介を通し、新たな社会と文化の可能性への挑戦が「人類はなぜ宇宙へ向かうのか」という問いに対する一つの答えとなることを論じた。